

ノンプロジェクト無償資金協力による医療機器の ジョージアへの供与式

平成29年4月28日、国立トレーニングセンターにて、対ジョージア・ノンプロジェクト無償資金協力による医療機器の供与式が行われました。

式典にはセルゲエンコ労働・保健・社会福祉大臣，貝谷駐ジョージア日本国大使ほかが出席しました。これに先立ち貝谷大使はユニバーサル・メディカルセンターを訪問し、供与された医療機器を視察しました。

本件支援により、CT、デジタル方式のX線撮影装置、超音波診断装置等がユニバーサル・メディカルセンター及びバトゥミの共和国病院に供与されるとともに、ジョージア各地の救急用に約140台もの除細動装置が供与されました。

ユニバーサル・メディカルセンターではグヴァミチャヴァ院長から、日本より供与されたCTにより従来は探知できなかった初期の肺がんが発見され、早期治療により完治したマリナさんが紹介されました。ご本人からは「日本のおかげで生命を救われた」との深謝が述べられました。また、セルゲエンコ大臣からは、除細動装置のおかげで患者の生存率が70%以上上昇したとして、我が国の支援に対する謝意表明がありました。日本政府は本件支援のために5億円をジョージア政府に供与しました。



除細動装置を視察するセルゲエンコ
大臣と貝谷大使



CTを視察する貝谷大使



ユニバーサル・メディカルセンターにて
後列左：グヴァミチャヴァ院長，同右：貝谷大使，
前列左：ベルズリ労働・保健・社会福祉次官，
同中央：CTでの早期発見により肺がんを完治したマリナさん，同右：ムクルナリ国際関係課長



国立トレーニングセンターにて
セルゲエンコ大臣と貝谷大使が
救急隊員とともに集合写真